



日本赤十字社医療施設
看護師募集案内

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

赤十字の誕生

赤十字の創設は、1859年にイタリア統一をめぐるオーストリア軍とフランス・サルジニア連合軍との間で起こった「ソルフェリーノの戦い」にまでさかのぼります。

4万人を超える死者と負傷者が出る悲惨な現場に遭遇したスイス人の青年実業家アンリー・デュナンは「傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である。人間同士としてその尊い生命は救われなければならない。」と考え、敵味方を区別せず、献身的に負傷兵の救護に当たりました。

その後、デュナンは、国際的な民間救護組織を作る必要性を訴えかけ、その想いはヨーロッパ各国へと伝わりました。そして、1864年、ジュネーブ条約調印。国際赤十字組織が誕生したのです。



アンリー・デュナン

日本赤十字社の成り立ち

1867年、パリ万博で赤十字を知った武家出身の佐野常民は、人道・博愛を実践する赤十字の存在が深く心に残りました。

そして、1877年の西南戦争で日本人同士が傷つけ合う姿を見た常民は、医師、看護師、庶務係で構成された救護班を派遣し、戦地での救護活動を献身的に行いました。

その後、常民は救護組織の必要性を強く政府に訴え、1877年に「博愛社（はくあいしゃ）」という組織が誕生しました。これが日本赤十字社の前身です。1887年には「博愛社」は「日本赤十字社」と改称され、国際赤十字のメンバーとして、国内外の幅広い分野で人道的支援活動を展開し続けています。



佐野常民

CONTENTS

○国内災害救護 04

日本赤十字社の国内災害救護

災害に対応できる赤十字看護師の育成

令和2年7月豪雨災害における医療救護活動

令和2年 新型コロナウイルス感染症への対応

○国際活動 08

赤十字の国際活動

日本赤十字社の国際活動

○看護師教育の特色 10

赤十字施設のキャリア開発ラダー

日本赤十字社の新人看護職員研修システム

○赤十字施設でのキャリアアップ 12

赤十字施設での特定行為研修

赤十字施設での訪問看護

救急法等の講習

赤十字病院で活躍する専門看護師・認定看護師

赤十字の看護職員の人事交流システム

赤十字病院全国マップ





国内災害救護

日本赤十字社の国内災害救護

日本赤十字社では、地震・台風・豪雨・火災などの自然災害や大事故に備えて、赤十字病院の医師、看護師などを中心に編成される救護班を全国で約 500 班（約 7,000 人）編成しています。

災害等が発生すると、ただちに救護班（1 班あたり医師・看護師等 6 名）や dERU（国内型緊急対応ユニット）を現地に派遣し、被災現場や避難所での診療を開始します。

また、被災によるストレス軽減を目的としたこころのケア活動も併せて行い、被災者の中・長期にわたって支援しています。



（写真提供：前橋赤十字病院（下段部））



Domestic Emergency Response Unit dERU（国内型緊急対応ユニット）

dERU とは、仮設診療所設備とそれを運ぶトラック・自動昇降式コンテナと訓練された dERU 要員、それらを円滑に運用するためのシステムの総称。
資機材の総重量は約 3 トン。麻酔や抗生物質などの医薬品、エアテント、外科用具など医療資機材のほか、診察台、簡易ベッド、担架、貯水タンクなどが積載されている。要員は訓練を受けた医師、看護師長、看護師、助産師、薬剤師らの医療要員と事務職員（基本構成 14 人）から構成され、1 日 150 人程度の軽症・中等症程度の傷病者に対して 3 日間の治療が可能である。



Disaster Medical Assistance Team 日本 DMAT（災害派遣医療チーム）

国が災害医療体制整備の一環として養成を開始した、災害の急性期（48 時間以内）に活動できる機動性を持った災害派遣医療チーム。主に災害拠点病院（基幹災害医療センター、地域災害医療センター）の医師、看護師、事務員ら 5 人程度で構成され、災害時には医療資機材を携行して真っ先に被災地へ駆け付け、現場での医療活動、広域搬送、病院支援などを行う。日本赤十字社は、日本 DMAT と同等の訓練を受けた救護班を中心として、被災現場で協働して活動を行っている。



こころのケア

大規模災害などで家族や友人を失ったり、避難所での不自由な生活を強いられることで、心に受けたダメージが、時に体調の変化など身体的な症状となって表れることがある。

日本赤十字社のこころのケア活動は、治療を目的とするのではなく、被災者の悩みを聞き、ストレスやその対処を話すことで安心感を築きながら、必要時専門医師に引き継ぎ、地域の保健師の活動を支援する役割を担っている。
「こころのケア班」は、看護師を中心に臨床心理士、医療ソーシャルワーカー、事務員などで構成される。

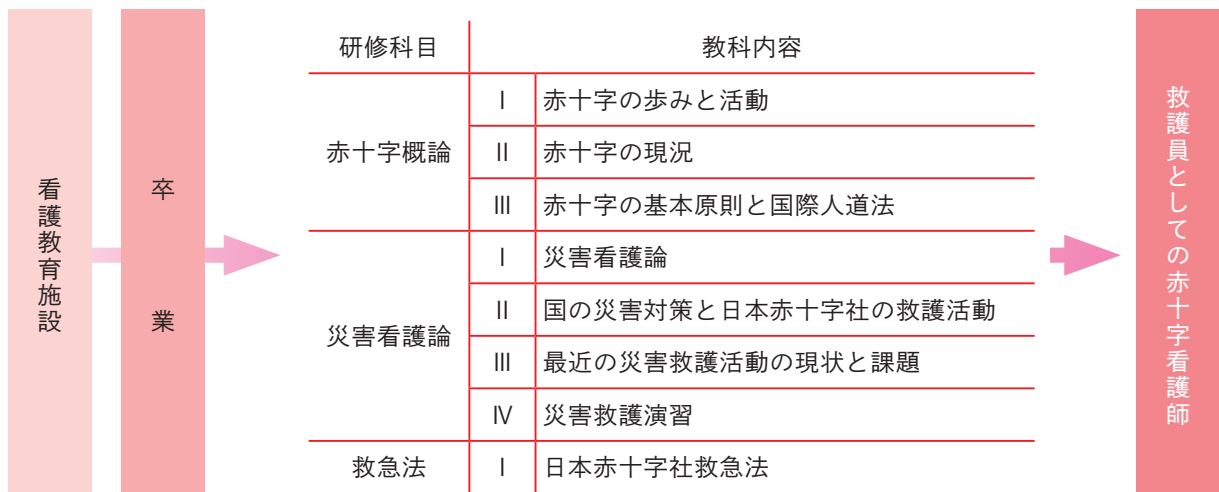
災害に対応できる赤十字看護師の育成

〈救護員としての赤十字看護師に期待されること〉

- 災害看護の知識、技術、態度を有し、的確に判断し行動できる。
- 赤十字の理念や基本原則に則って、人間の尊厳と生命を守り、身体的、精神的な苦痛を軽減できる。
- 救護員としての赤十字看護師の立場と役割を理解して行動できる。

〈災害看護教育の体系図〉

日本赤十字社の医療施設等に看護師として 3 年以上勤務する中で一定の救護訓練・教育を受講します。



令和2年7月豪雨災害における医療救護活動

令和2年7月の豪雨により、九州地方を中心に、死者83人、行方不明者3人、負傷者29人、被害を受けた住居が全壊1,234棟を含む18,355棟にのぼるなど深刻な被害が発生しました。（令和2年9月3日現在）

日本赤十字社では、災害対策本部を立ち上げ、医師・看護師等からなる救護班を現地へ派遣し（8月25日現在54班297人、※日本DMAT20班含む）、医療活動を行いました。



人吉スポーツパレス内救護所で診療中のスタッフ
（熊本県人吉市）

Voice

令和2年7月豪雨で救護班として活動を経験して

熊本赤十字病院 6階西病棟 看護師 今井 文規

私は、今回の豪雨が発生した際に病棟で勤務をしており、発生からすぐに救護班が出動したのを確認していました。そして、7/12頃、突然勤務中に、来週から被災地の救護に行けないかと上司から打診を受け、私は「行きます」と即答したのを覚えています。そして、豪雨発生後12日目の7/16に熊本県人吉市に救護班として出動することになりました。

被災地に到着後すぐに被災地の本部から申し送りを確認し、息をつく暇もなくすぐに活動開始となりました。私たちは主に避難所の巡回と避難所における感染対策など、避難所として問題ないのか確認をして回りました。この時期にはコロナウイルスの対策も必要でしたが、被災地として今必要なニーズは何なのか現場に出向いて初めて分かることもありました。被災地の奥に進むと未だに土砂がはけて

いない道路もあり、車が通れないところには歩いて民家を確認したところ避難できずに孤立している被災者もいました。

救護班として活動していく中で、赤十字は救護活動ができるチームをすぐに派遣するという機動力の高さを感じました。また、赤十字のスタッフとして平時より、現場で活動をする際に戸惑わないように準備をしておくことの大切さを学びました。7/19まで3日間活動し短い期間の中で、私たちがお役に立てたのか分からないところはありますが、自分なりに一杯力をつくしたつもりです。そして、被災地で医療者として活動できたことを誇りに思っています。



令和 2 年 新型コロナウイルス感染症への対応

日本赤十字社では、厚生労働省からの要請を受け、3月1日まで、横浜港に停泊中のクルーズ船（ダイヤモンド・プリンセス号）に救護班や国の災害派遣医療チームを派遣しました。

また、赤十字病院は地域の中核病院となっているところが多く、重症患者を中心に診療する役割を担っています。このため、感染者の受け入れのため、体制の整備に努めています。



Voice

北海道胆振東部地震（平成 30 年 9 月）で救護活動を経験して

清水赤十字病院 看護師 旭 瑞穂

私は、北海道胆振東部地震で初動班として厚真町に出動し、医療救護活動を行いました。被災地までは、道路網の寸断のため、道を探しながらの移動となりました。

現地に到着すると、すぐに現地災対本部の指示を受け活動しました。大規模停電の影響で情報が少なく、発災当日の混乱した状況下ではありましたが、組織として役割がすぐに分担される機動力の高さは、赤十字の大きな強みです。

被災地の方々は、相次ぐ余震やライフラインの寸断など多くのストレスを抱えていました。少しでも被災された方々の力になるべく、コミュニケーションを取り、外傷の処置、避難所アセスメント、衛生・感染対策にあたりました。限られた資源、限られた時間の中で、多くのことはできなかったと思います。しかし、被災され

た方々からは、「待っていたよ」「安心した」「また来てね」といった声や、多くのありがとうと笑顔を頂きました。医療器材がなくてもできる看護はたくさんあり、傍に寄り添うことの大切さを改めて実感しました。

救護班としての活動の中で、たくさんの気づきを頂きました。平時より、一人一人の背景や思いに寄り添い、おもいやりのある看護を心掛けていきたいと考えています。





(写真提供：名古屋第二赤十字病院)

赤十字の国際活動

紛争や自然災害、病気などに苦しむ人々を救うため、赤十字は 191 の国や地域に広がる世界的ネットワークを生かし、人々の苦痛を軽減し予防するための様々な活動を行っています。緊急時の救援活動に加え、疾病や感染症など健康問題に苦しむ人々の状態を改善するために、保健衛生分野の活動も重点課題の一つに挙げ、活動を展開しています。

日本赤十字社の国際活動

日本赤十字社では、国際赤十字の一員として、国内 5 力所の国際医療救援拠点病院※を中心に、赤十字病院グループ全体で災害や紛争の被害者への医療救援活動や病院・診療所の復興支援、開発協力などを行っており、多くの看護師が世界で活躍しています。

また、支援の分野は医師や看護師などの派遣にとどまることなく、食糧や医薬品、復興事業への資金援助など様々な視点からも赤十字の理念に基づき、人道支援を行っています。

なお、さまざまな国際活動を担える人材（海外派遣要員）の養成にも力を入れており、緊急救援に使用する資機材について学ぶ実地プログラム「保健医療 ERU 研修」と、国際赤十字の枠組みで開発途上国での緊急救援・開発協力事業や復興支援事業等に従事する要員を養成する「国際救援・開発協力要員研修Ⅱ（IMPACT）」の 2 種類の研修を実施しています。

(※) 国際医療救援拠点病院 = 日本赤十字社医療センター、名古屋第二赤十字病院、大阪赤十字病院、日本赤十字社和歌山医療センター、熊本赤十字病院

国際活動に従事した看護職員実績（2018年1月～2020年3月） ※延べ人数

派遣国	派遣者数	派遣元病（産）院等
インドネシア	2	日本赤十字社医療センター、大阪赤十字病院
パキスタン	1	日本赤十字社和歌山医療センター
パレスチナ	2	大阪赤十字病院、姫路赤十字病院
バングラデシュ	53	日本赤十字社医療センター、旭川赤十字病院、石巻赤十字病院、武蔵野赤十字病院、大森赤十字病院、葛飾赤十字産院、横浜市立みなと赤十字病院、高山赤十字病院、岐阜赤十字病院、静岡赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、伊勢赤十字病院、京都第一赤十字病院、大阪赤十字病院、神戸赤十字病院、姫路赤十字病院、日本赤十字社和歌山医療センター、山口赤十字病院、徳島赤十字病院、高知赤十字病院、福岡赤十字病院、熊本赤十字病院
フィリピン	7	日本赤十字社医療センター、北見赤十字病院、武蔵野赤十字病院、静岡赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、大阪赤十字病院、神戸赤十字病院
南スーダン	7	武蔵野赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、大阪赤十字病院、姫路赤十字病院、福岡赤十字病院、沖縄赤十字病院
ヨルダン	8	名古屋第二赤十字病院、大阪赤十字病院、日本赤十字社和歌山医療センター、山口赤十字病院、徳島赤十字病院、熊本赤十字病院
レバノン	8	日本赤十字社医療センター、武蔵野赤十字病院、高山赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、大阪赤十字病院

Voice

会おう一つ一つの命に寄り添うーバングラデシュ南部避難民支援

名古屋第二赤十字病院 看護師 秋田 英登

災害や紛争で失われる尊い命、生まれた国が違っただけで起こる現実が心が痛みます。適切な医療で助かる命を直接守りたい、という思いから私は看護の道を選びました。『敵味方の区別なく苦しむ人の命と尊厳を守る』という赤十字の理念を知り、国内外において専門職の立場で救援に従事できると思い、赤十字病院に就職しました。日々の看護実践や赤十字の人道支援活動を学び、会おう一つ一つの命に寄り添う、という私の夢が現実になりました。

初めての国際救援の現場。バングラデシュに避難した人々の姿を目の当たりにし、自身の無力さを感じました。しかし診療やケアを

受けた彼らの安堵した表情から、日々培った看護の実践力と医療をとおして安全と安心を提供できた、と実感しました。赤十字の使命のもと、現地スタッフそしてボランティアと共に一つとなって活動できた経験は私の誇りです。





(写真提供：前橋赤十字病院)

赤十字施設のキャリア開発ラダー

日本赤十字社では、平成 16 年に赤十字の理念に基づいた質の高い看護や医療を提供できる人材、赤十字事業の推進者となる人材の育成を主な目的とした「赤十字施設の看護師キャリア開発ラダー」の仕組み作りを行いました。

同キャリア開発ラダーは 5 段階に分かれており、各レベルにはそれぞれ、目標を達成するための教育研修が用意されています。

また、看護師個々が、職場の上司や先輩の支援を受けながら、自らでキャリア開発できる体制も整えられています。

	実践者	管理者	国 際	教 員
V	病院単位で活動できる者	管理Ⅳ 管理Ⅲ	国際Ⅳ 国際Ⅲ	教員Ⅳ 教員Ⅲ
Ⅳ	看護部単位で活動できる者	管理Ⅱ 管理Ⅰ	国際Ⅱ 国際Ⅰ	教員Ⅱ 教員Ⅰ
Ⅲ	病棟単位で活動できる者 リーダー			
Ⅱ	自律して看護活動ができる者（病棟内）			
Ⅰ	指導や助言を得ながら看護活動ができる者			

(2020 年 4 月時点)

注) 実践者ラダーレベルⅢ以上の段階は横並びに同等の職位を表しているのではなく、それぞれに積み上げていく構造となっており、実践者ラダーレベルⅣ、管理者ラダーレベルⅠ、国際ラダーレベルⅠ、教員ラダーレベルⅠはレベルを比較するものではありません。

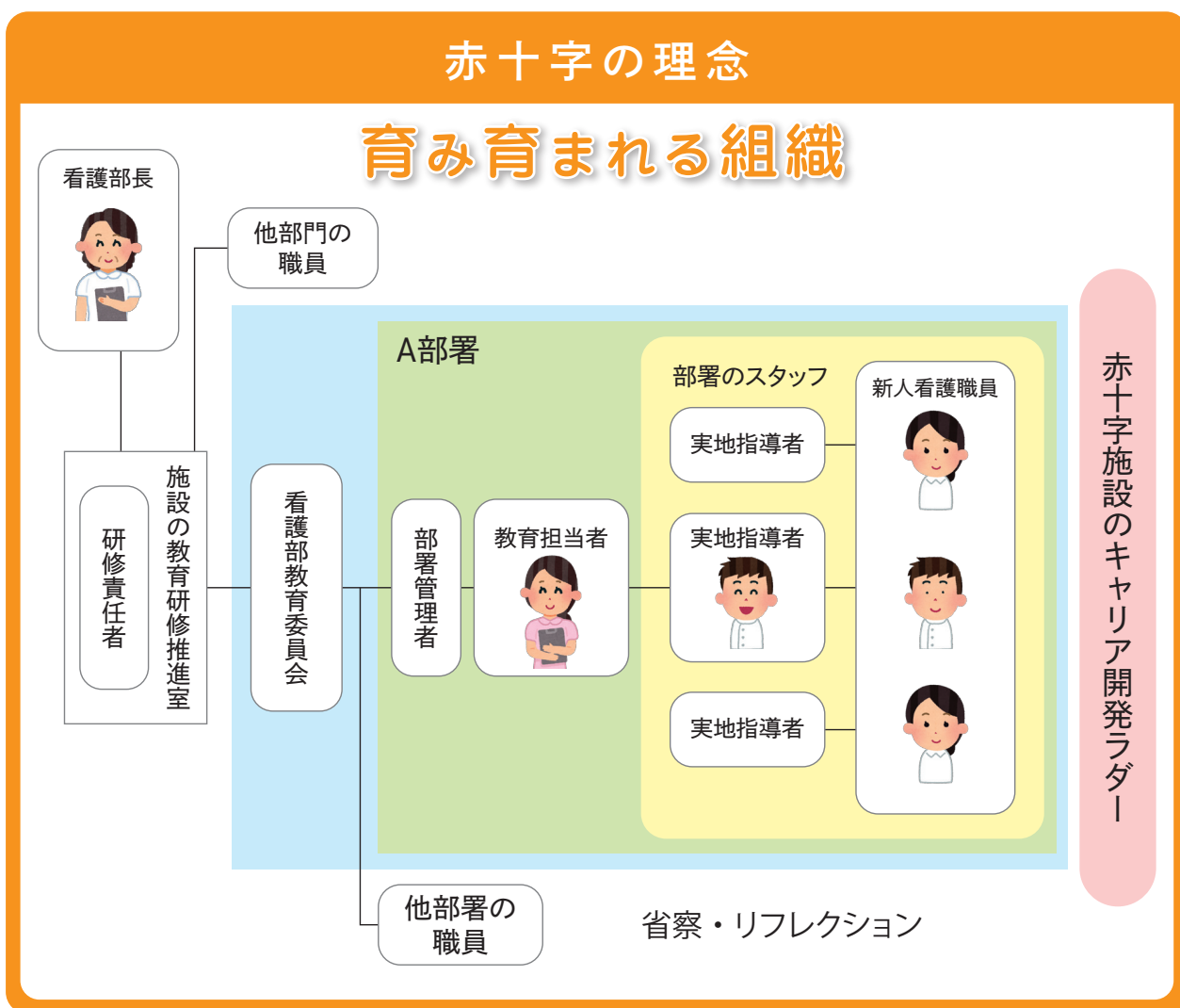
日本赤十字社の新人看護職員研修システム

日本赤十字社では、平成23年度に「省察（自らをかえりみて考える）」^{せいさつ}の考え方を取り入れた「日本赤十字社の新人看護職員研修システムガイドライン」を作成しました。

本ガイドラインでは、新人看護師だけでなく、教育する側の先輩看護師も支援することで、赤十字グループや地域の施設等とも相互協力し、ひとと自分も大切にする「育み育まれる組織づくり」を目指しています。

また、新人看護師のうちから、看護師として、一人の社会人として、自らが生涯にわたってキャリア開発できるよう、学習支援・心理的支援・業務支援の3つが統合された組織的な支援体制を整えています。

新人看護職員研修システム組織図例



特定行為研修

(写真提供：鳥取赤十字病院)

赤十字施設での特定行為研修

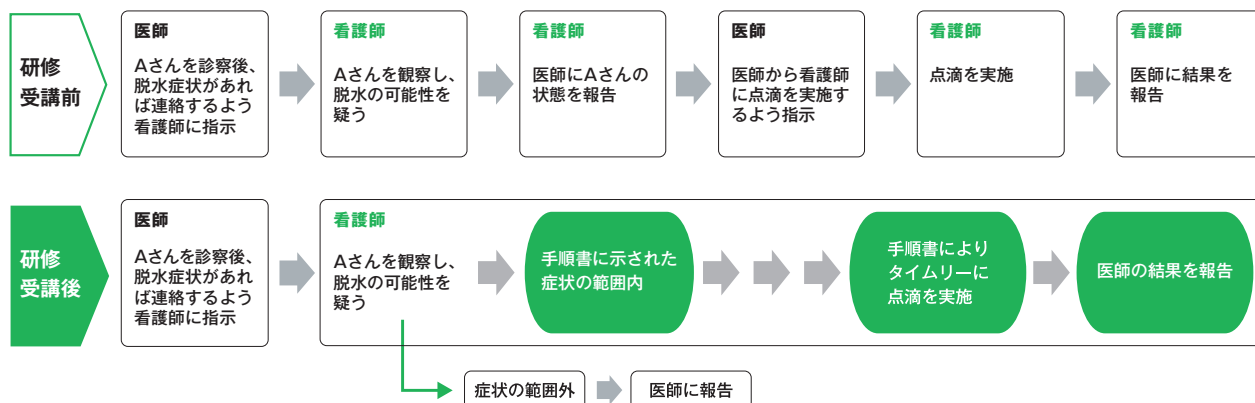
平成 27 年の法改正（保健師助産師看護師法）により特定行為研修を修了した看護師は、医師の判断を待たずに、手順書により一定の診療の補助を行えるようになりました。

日本赤十字社も、平成 30 年 2 月に同研修の指定研修機関に指定され、同年 4 月より特定行為を実施できる看護師を育成しています。

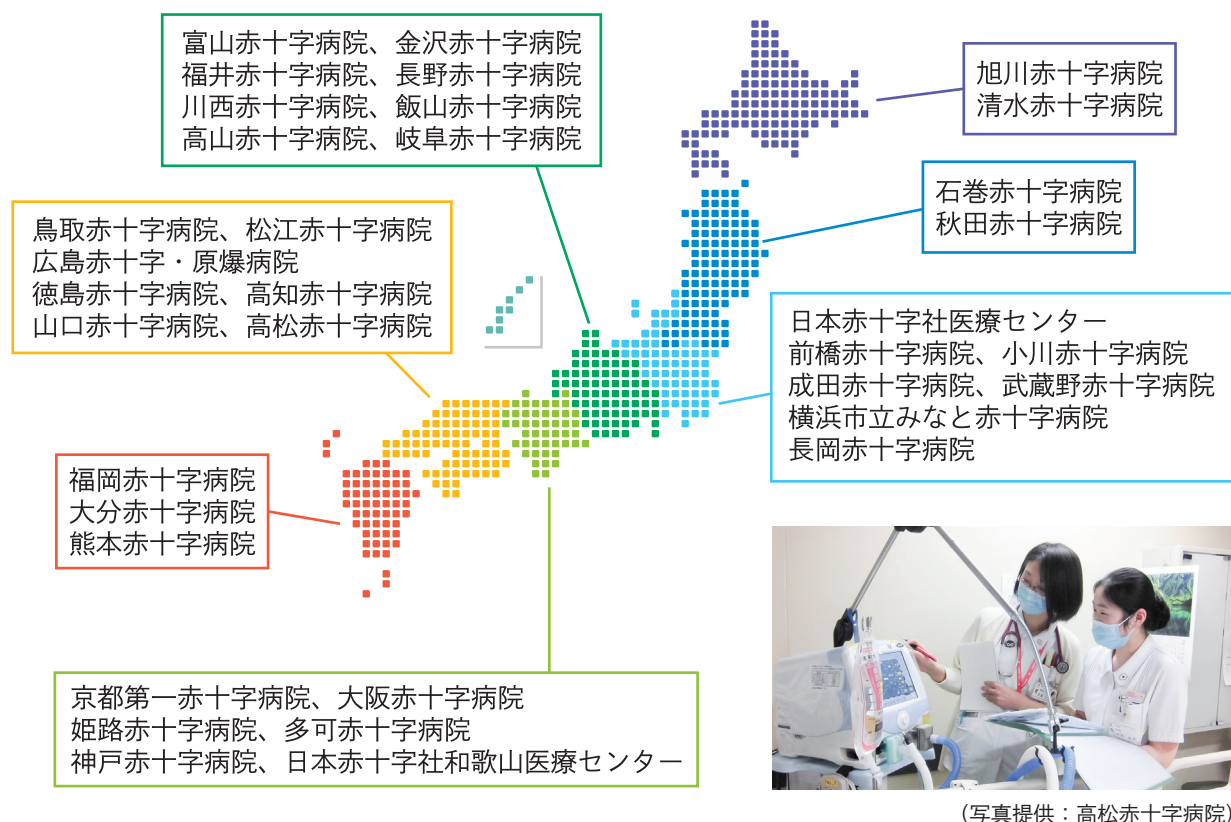
現在、全国の 35 施設（指定研修機関 17、本社協力施設 18、令和 2 年 10 月時点）で研修を行っています。

現在、日本赤十字社で研修を実施している区分は、「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」等の 6 区分で、順次、実施する区分の拡充を図っています。

特定行為の実施の流れ（脱水を繰り返すAさんの例）



日本赤十字社の特定行為研修施設（35 施設）



Voice

患者さんの生活・意向に添ったタイムリーな介入

鳥取赤十字病院 特定認定看護師※（糖尿病看護） 田淵 裕子

私は、糖尿病看護認定看護師として患者さんが、糖尿病を持ちながら自分らしく療養生活できるように支援してきました。支援していく中でより患者さんの生活状況にあったインスリン療法の支援がしたいと思い、特定行為研修を受講しました。特定行為研修では、臨床推論の知識、医療面接・フィジカルアセスメントの技術などを学び、患者さんの病態、治療をより深く理解できるようになり、医師やコメディカルと根拠を持ってディスカッションできるようになったと感じています。

現在、特定認定看護師として、患者さんと一緒に生活状況を振り返り、患者さん

にあったインスリン投与量の調整を行っています。患者さんにわかりやすく根拠を持った説明を行うことで、患者さん自身が血糖値に関心をもってより積極的に治療に取り組まれるようになったと感じています。

今後は、患者さんの生活の場に出向き、患者さんの生活や意向に添ったタイムリーな介入をしていきたいと考えています。



※ 特定認定看護師：特定行為研修を組み込んでいる認定看護師教育を修了した者（日本看護協会の認定）

訪問看護

(写真提供：釧路赤十字病院)

赤十字施設での訪問看護

赤十字では、全国に49（令和2年8月現在）の訪問看護ステーションを開設し、地域で暮らす方々の在宅療養を支えています。

医師、訪問看護師、ケアマネジャー、介護福祉士、理学療法士や作業療法士など様々な職種が協働し、「住み慣れた家で、自分らしく暮らしたい」という利用者や家族の思いに寄り添っています。地域や、病院などと連携し、在宅医療の一旦を担う訪問看護師の役割は重要です。赤十字病院に併設する訪問看護ステーションということで、利用者さんやご家族の安心感にも繋がっています。

訪問看護は、幅広い知識や技術、経験が活かされるため、日々自己研鑽することが、やりがいにも繋がる素敵な仕事です。

Voice

あなたやご家族の傍に訪問看護師が

釧路赤十字訪問看護ステーション 看護師 遠野いずみ

「こんにちは、釧路赤十字訪問看護です～」とお声をかけると「は～い、どうぞ」と笑顔で迎えてくれます。A子さんは80歳台、糖尿病でインスリン注射や尿道留置カテーテルの管理の目的で訪問しています。ご夫婦で一戸建てにお住まいで、ご主人は80歳台、現役でお仕事をされて日中は猫ちゃんとお留守番です。「体温」「血圧」「肺音」「腸音」などを観察し体調の観察や入浴の介助をします。病状の変化に伴う介護方法についてご家族と相談し、ケアマネジャーへ福祉サービスの相談などご家族と共に自宅での生活が続けられ

るように支援をします。

住み慣れた居宅でのその人らしい生活、そしていつか来る最期を迎える時までご家族の覚悟を支え、ともに悩み、受け止めていく過程や、亡くなった後のグリーフケアまで、利用者さんの「人生の物語」に関われる訪問看護が大好きです。





救急法等の講習

救急法等の講習

日本赤十字社は、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、「救急法」、「健康生活支援講習」等さまざまな講習を行っています。

赤十字施設で働く多くの看護師も、「赤十字救急法基礎講習」「赤十字救急法救急員養成講習」を受講し、「赤十字救急法救急員（赤十字ファーストエイドプロバイダー）」の認定証を取得しており、習得した技術を国内災害救護や国際活動などの現場でも発揮しています。

また、救急法救急員取得後は、指導員養成講習を受講し、救急法指導員として、地域住民の健康安全に関する知識・技術の普及と啓発のための活動も行っています。



救急法

日常生活における事故防止や手当ての基本、胸骨圧迫や人工呼吸の方法、AED（自動体外式除細動器）を用いた除細動、止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得できます。



健康生活支援講習

誰もが迎える高齢期を、健やかに生きるために必要な健康増進の知識や高齢者の支援・自立に向け役立つ介護技術を習得できます。



幼児安全法

子どもを大切に育てるために、乳・幼児期に起こりやすい事故の予防とその手当、かかりやすい病気と発熱・けいれんなどの症状に対する手当などの知識と技術を習得できます。

上記の講習のほかに、「水上安全法」「雪上安全法」などの講習があります。

赤十字病院で活躍する専門看護師・認定看護師

日本赤十字社では、高度化する保健・医療・福祉のニーズ変化に対応できる専門看護師・認定看護師の育成を推進しており、資格を取得した多くの看護師が専門知識を活かし、全国の赤十字医療施設で活躍しています。

また、赤十字の看護大学・大学院では専門看護師・認定看護師教育課程を併設しています。

赤十字病院の専門看護師数 / 全国総数

127 人 / 2,519 人

※令和元年10月現在（全国総数は令和元年12月現在）

〈13分野〉

がん看護、精神看護、地域看護、老人看護、小児看護、母性看護、慢性疾患看護、急性・重症患者看護、感染看護、家族支援、在宅看護、遺伝看護、災害看護

赤十字病院の認定看護師数 / 全国総数

1,195 人 / 21,048 人

※令和元年10月現在（全国総数は令和元年12月現在）

〈21分野〉

救急看護、皮膚・排泄ケア、集中ケア、緩和ケア、がん化学療法看護、がん性疼痛看護、感染管理、糖尿病看護、不妊症管理、訪問看護 等



浜松赤十字病院
摂食・嚥下障害看護認定看護師
村松 貴志

「口から食べる幸せ」の大切さ

当初は国際救援に興味があり、赤十字病院へ就職しましたが、看護実践の中で「口から食べる幸せ」の大切さを感じ、摂食・嚥下障害看護認定看護師を志しました。皆さんに支えてもらい、2014年に認定看護師資格を取得することができました。

現在は、摂食・嚥下障害看護の質の向上を目的に、嚥下機能評価や訓練、勉強会の開催や院内のシステム作りなどに取り組んでいます。また、地域住民の方々を対象に嚥下外来の実施や地域での勉強会を開催しています。

高齢化が急速に進む現在、一人でも多くの方が最期まで口から食べられるよう、美味しいものを食べて「幸せ」と感じられるよう、今後も他職種と連携して取り組んでいきたいと考えています。



秋田赤十字病院
急性・重症患者看護専門看護師
小笠原 美奈

患者・家族中心の看護を心がけています

脳神経外科・整形外科の混合病棟から救急外来へ異動し、救急看護や急性期看護の専門性を実感しました。そして2005年認定看護師資格取得の後、2013年に専門看護師資格を取得しました。救急外来では、毎日異なる患者さんと関わります。一期一会のこの日々が、学びの機会となっています。生命の危機的状態で治療が優先される中でも、患者さんや家族が中心となる看護実践を心がけており、スタッフ指導に活かしています。またフィジカルアセスメントを駆使することで、患者さんにとってタイムリーな看護実践が出来ると感じており、その教育もしています。

今後も後輩育成のためキャリアアップを目指す看護師に対する役割モデルとして、実践を重ねていきます。

赤十字の看護職員の人事交流システム

日本赤十字社では、赤十字病院グループのスケールメリットを活かした「看護職員人事交流システム」を導入しており、各赤十字医療施設の看護師確保の促進や偏在化の緩和、組織の活性化を図るだけでなく、派遣看護師の希望にも沿うことで、個人のキャリアアップに繋がっています。

また、平成 21 年から労働時間の短縮、育児短時間勤務制度を導入するなど、職員の妊娠、出産、育児を支援する制度の整備にも努めています。

看護職員人事
交流システムの

3 タイプ

派遣型

看護職員の不足を補うことが目的。本社看護部によるマッチングで派遣希望者が一定期間異動し、その後元の施設に戻る。

研修型

キャリアアップなどの研修を目的として他施設に一定期間異動し、その後元の施設に戻る。

転勤異動型

結婚や配偶者の転勤などの個人的理由により他施設に異動する。

〈施設内保育施設の整備状況〉（令和元年 10 月現在）

65 施設／全国 90 施設

〈産前産後休暇取得状況〉

2,116 人／ 35,287 人

〈育児休業取得状況〉

1,741 人／ 35,287 人

〈育児短時間勤務制度利用者〉

3,416 人／ 35,287 人



全国の赤十字病院への派遣は看護職員の不足を補うだけでなく、転勤異動や研修を目的とした人事交流も実施

Voice

転勤異動制度を利用して

松江赤十字病院 看護師 川西 妃奈子

松江赤十字病院入職後、9 年目に夫の転勤が決まり、自身の看護師としてのキャリアを諦めて退職するか悩んでいたところ、上司から転勤によるキャリア継続の提案をいただきました。人事交流の制度を活用して大阪赤十字病院に転勤したことで、松江で取得した実践者ラダーⅢをもって新たな職場での役割遂行や研修参加ができました。

一度退職すると、転居と併せての再就職はストレスが大きいと思いますが、この制度を利用したことでストレスはかなり

少なく働きつづけることができました。大阪で産休・育休を経て仕事を継続し、平成 29 年春にまた制度を利用して松江赤十字病院に転勤しました。

結婚、転居、出産と人生の転機が次々と訪れましたが、看護師としてのキャリアを諦めることなく働き続けることができ、今後もキャリアを重ねていきたいと考えています。



赤十字病院の機能

赤十字病院は、医療法における公的医療機関*として、救急医療、がんなどの高度専門診療、生活習慣病の予防や高齢社会における介護の支援、へき地医療などを積極的に行っています。

また、地域の中核病院として、地域に根ざし、かつ安全・安心な医療を提供するために、すべての病院に医療安全推進室を設置し、医療事故及び院内感染の防止への取り組みを強化しています。災害時には国内外へ医療チームを派遣し、救護活動にあたるなど赤十字の特色を生かしながら様々な活動を通じて社会に貢献しています。

近畿

大津赤十字病院	高救	小児	工拠	臓	地が	総周	基災	地援	機
大津赤十字志賀病院	療	包							
長浜赤十字病院	救命	工協	臓	地周	地災	地援	二感	訪	機
京都第一赤十字病院	救命	工拠	臓	地が	総周	基災	地援	機	
京都第二赤十字病院	救命	臓	地が	地周	地援	機			
舞鶴赤十字病院	工協	訪	回	包					
大阪赤十字病院	救命	臓	地が	地周	地災	地援	緩	機	
高槻赤十字病院	地援	緩	訪	二感					
姫路赤十字病院	工協	臓	地が	総周	地災	地援	二感	訪	機
多可赤十字病院	老健	訪	回	療	包				
神戸赤十字病院	高救	基災	地援	機					
日本赤十字社 和歌山医療センター	高救	工拠	臓	地が	地周	地災	地援	一感	二感
								緩	機

中国・四国

鳥取赤十字病院	工協	地災	地援	機	包				
松江赤十字病院	救命	工拠	臓	地が	地周	地災	地援	一感	へ医
益田赤十字病院	工拠	地周	地援	二感	へ医				
岡山赤十字病院	救命	工拠	臓	地が	地周	基災	地援	へ医	緩
岡山赤十字玉野分院	老健	療	機						
広島赤十字・原爆病院	工協	地が	地災	地援	緩	訪	機	包	
庄原赤十字病院	工協	地災	二感	へ医	訪	療	機	包	
三原赤十字病院	工協	地災	訪	機					
山口赤十字病院	小児	地周	地災	地援	緩	訪	機		
小野田赤十字病院	老健	訪	地包	療	介	介院	機		
徳島赤十字病院	高救	臓	地が	地周	地災	地援	へ医	機	
高松赤十字病院	工拠	臓	地が	地周	地災	地援	へ医	機	
松山赤十字病院	工協	臓	地が	地周	地災	地援	二感	機	
高知赤十字病院	救命	臓	地が	地災	地援	機			

九州・沖縄

福岡赤十字病院	工協	臓	地災	地援	へ医	訪	二感	機
今津赤十字病院	訪	療	介	包				
嘉麻赤十字病院	訪	地包	包					
唐津赤十字病院	救命	工協	臓	地が	地災	地援	二感	機
日本赤十字社長崎原爆病院	工協	臓	地が	地災	地援	緩	訪	包
日本赤十字社長崎原爆諫早病院	二感	訪	包					
熊本赤十字病院	救命	小児	臓	地が	地周	基災	地援	機
大分赤十字病院	工協	地が	地災	地援	訪	機	包	
鹿児島赤十字病院	工協	臓	地災	へ医				
沖縄赤十字病院	地災	地周	地援	緩	機			

凡例

救命	救命救急センター	地災	地域災害医療センター	療	療養病床
高救	高度救命救急センター	地援	地域医療支援病院	介	介護保険適応療養病床
小児	小児救急医療拠点病院	特感	特定感染症指定医療機関	介院	介護医療院
工拠	エイズ治療拠点病院	一感	第一種感染症指定医療機関	回	回復期リハビリテーション病棟
工協	エイズ協力病院	二感	第二種感染症指定医療機関	地研	地域医療研修センター
臓	臓器提供施設	へ医	へき地医療拠点病院	機	医療機能評価認定施設
地が	地域がん診療連携拠点病院	緩	緩和ケア病棟	包	地域包括ケア病棟・病床
総周	総合周産期母子医療センター	老健	介護老人保健施設	看多	看護小規模多機能型居宅介護
地周	地域周産期母子医療センター	訪	訪問看護ステーション		
基災	基幹災害医療センター	地包	地域包括支援センター		

それぞれの赤十字病医院のホームページは、以下の URL (<http://www.jrc.or.jp/activity/medical/medical-search/>) または QR コードから検索してください。



北海道・東北

旭川赤十字病院	救命	工機	臓	地周	地災	地援	訪	機
伊達赤十字病院	工協	地災	へ医	訪	療	機	包	
釧路赤十字病院	小児	工機	総周	訪	機	包		
北見赤十字病院	救命	小児	工機	臓	地が	地周	地災	地援
栗山赤十字病院	療							
浦河赤十字病院	工協	地周	地災	二感	へ医	訪	療	包
小清水赤十字病院	訪	療						
置戸赤十字病院	療	機						

函館赤十字病院	包											
清水赤十字病院	工協	包										
八戸赤十字病院	機	地災	地援									
盛岡赤十字病院	臓	地周	基災	地援	緩	機						
仙台赤十字病院	工協	総周	地災	機	包							
石巻赤十字病院	救命	臓	地が	地周	地災	地援	二感	へ医	機			
秋田赤十字病院	救命	工拠	臓	地が	総周	地災	地援	機				
福島赤十字病院	地災	地援	二感	訪	機							

赤十字病院
全国マップ

関東

日本赤十字医療センター	救命	工拠	臓	地が	総周	地災	地援	緩	訪			
水戸赤十字病院	工拠	地周	基災	地援	二感	緩	機	包				
古河赤十字病院	地災	地援	二感	包								
芳賀赤十字病院	工拠	地周	地災	地援	へ医	二感	回	訪	機			
那須赤十字病院	救命	工拠	臓	地が	地周	地災	地援	二感	へ医	緩	訪	機
足利赤十字病院	救命	工拠	臓	地が	地周	地災	地援	二感	回	緩	機	
前橋赤十字病院	高救	工拠	臓	地が	地周	基災	地援	二感	訪	回	機	
原町赤十字病院	工協	地災	二感	訪	療	包						
さいたま赤十字病院	高救	工協	臓	地が	総周	基災	地援	機				
小川赤十字病院	訪	包										
深谷赤十字病院	救命	工協	臓	地が	地周	地災	地援	二感	緩	訪	機	
成田赤十字病院	救命	工拠	臓	地周	地災	地援	特感	一感	二感	訪	機	
武蔵野赤十字病院	救命	工拠	臓	地が	地周	地災	地援	二感	訪	機		
大森赤十字病院	地災	地援	訪	機								
葛飾赤十字産院	地周											
横浜市立みなと赤十字病院	救命	小児	工拠	臓	地が	地周	地災	地援	緩	機		
秦野赤十字病院	工拠	地災	訪	包								
相模原赤十字病院	工拠	地災	訪	包								

北陸・甲信越・東海

長岡赤十字病院	救命	工拠	臓	地が	総周	基災	地援	二感	緩	機				
富山赤十字病院	臓	地が	地災	地援	緩	訪	地包	機						
金沢赤十字病院	地災	訪	回	包										
福井赤十字病院	工協	臓	地が	地周	地災	地援	二感	緩	訪	機				
山梨赤十字病院	工拠	地周	療	機	包									
長野赤十字病院	救命	工拠	臓	地が	地周	基災	地災	地援	訪	機				
諏訪赤十字病院	救命	工拠	地が	地周	地災	地援	訪	機						
安曇野赤十字病院	工協	地援	訪	回	機	包								
川西赤十字病院	訪	地包	療	介	包									
下伊那赤十字病院	訪	療	介	包										
飯山赤十字病院	へ医	訪	回	療	包									
高山赤十字病院	救命	小児	工拠	臓	地が	地周	地災	地援	へ医	老健	回	地研	包	機
岐阜赤十字病院	地災	地援	一感	二感	機									
静岡赤十字病院	救命	工拠	臓	地災	地援	訪	機							
浜松赤十字病院	工拠	地災	地援	訪	包									
伊豆赤十字病院	老健	療	訪	包	看多									
引佐赤十字病院	療													
裾野赤十字病院	二感	包	訪											
名古屋第一赤十字病院	救命	工拠	臓	地が	総周	地災	地援	緩	機					
名古屋第二赤十字病院	救命	工拠	臓	地が	総周	地災	地援	一感	機					
伊勢赤十字病院	救命	工拠	臓	地が	地周	地災	地援	一感	二感	へ医	緩	老健	機	

日本赤十字社の事業



国内災害救護

災害時に救護活動を迅速に行うため、訓練、物資の整備、人材育成など、常に災害に対応できる体制を作ります。災害時は、急性期から慢性期まで切れ目なく救護活動を行います。



国際活動

災害や紛争、病気などに苦しむ人々を救うため、世界最大のネットワークを生かして、緊急時の救援や復興支援、予防活動に取り組みます。



赤十字病院

大切ないのちを救うため、救急医療などを積極的に行い、地域医療を支えます。また、災害時にはいち早く医師や看護師を派遣します。



看護師等の教育

赤十字の理念に基づき、国際人道法や災害看護を学び、豊かな人間性と看護に関する幅広い知識・能力を備えた人材を育成します。



血液事業

病気の治療などで輸血を必要とする人を救うため、献血を受け付け、安全な血液製剤を24時間医療機関へお届けします。



救急法等の講習

身近な人を救うため、とっさの手当てや日常生活での事故防止など、健康安全に関する知識・技術の普及と啓発を行います。



青少年赤十字

世界の平和と人道の実現のため、次世代を担う青少年が実践活動を通して自ら「気づき、考え、実行」できる学びの機会を提供します。



社会福祉

個人の尊厳を守るため、社会的な支援を必要とする人が、その人らしい生活を送れるような支援を行います。また、地域のボランティアや関係機関と連携し、皆が支え合える地域社会を目指します。



赤十字ボランティア

「困っている・苦しんでいる人の役にたいたい」という思いを持つ同志が、その思いを結集し、全国でさまざまな赤十字活動を行います。

